

製品概要 ※太字・下線部分が今回追加された内容です。

- 製 品 名 : レキード®点滴静注用 100
一 般 名 : インフリキシマブ (遺伝子組換え)
効 能・効 果 : 既存治療で効果不十分な下記疾患
関節リウマチ (関節の構造的損傷の防止を含む)
ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎
尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症
強直性脊椎炎
腸管型ベーチェット病、神経型ベーチェット病、血管型ベーチェット病
川崎病の急性期
次のいずれかの状態を示すクローン病の治療及び維持療法 (既存治療で効果不十分な場合に限る)
中等度から重度の活動期にある患者
外瘻を有する患者
中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療 (既存治療で効果不十分な場合に限る)
- 用 法・用 量 : <関節リウマチ>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 3 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。なお、6 週の投与以後、効果不十分又は効果が減弱した場合には、投与量の増量や投与間隔の短縮が可能である。これらの投与量の増量や投与間隔の短縮は段階的に行う。1 回の体重 1 kg 当たりの投与量の上限は、8 週間の間隔であれば 10mg、投与間隔を短縮した場合であれば 6 mg とする。
また、最短の投与間隔は 4 週間とする。本剤は、メトレキサート製剤による治療に併用して用いること。
<ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。
<乾癬>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。**なお、6 週の投与以後、効果不十分又は効果が減弱した場合には、投与量の増量や投与間隔の短縮が可能である。これらの投与量の増量や投与間隔の短縮は患者の状態に応じて段階的に行う。1 回の体重 1 kg 当たりの投与量の上限は、8 週間の間隔であれば 10mg、投与間隔を短縮した場合であれば 6mg とする。また、最短の投与間隔は 4 週間とする。**
<強直性脊椎炎>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 6 ~ 8 週間の間隔で投与を行うこと。
<腸管型ベーチェット病、神経型ベーチェット病、血管型ベーチェット病>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、
以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。なお、6 週の投与以後、効果不十分又は効果が減弱した場合には、体重 1 kg 当たり 10mg を 1 回の投与量とすることができる。
<川崎病の急性期>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を単回点滴静注する。
<クローン病>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。なお、6 週の投与以後、効果が減弱した場合には、体重 1 kg 当たり 10mg を 1 回の投与量とすることができる。
<潰瘍性大腸炎>
通常、インフリキシマブ (遺伝子組換え) として、体重 1 kg 当たり 5 mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。
初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。
- なお、本剤投与時には、1.2 ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。